

## 今月のトピックス 「コムギの縞萎縮病について」

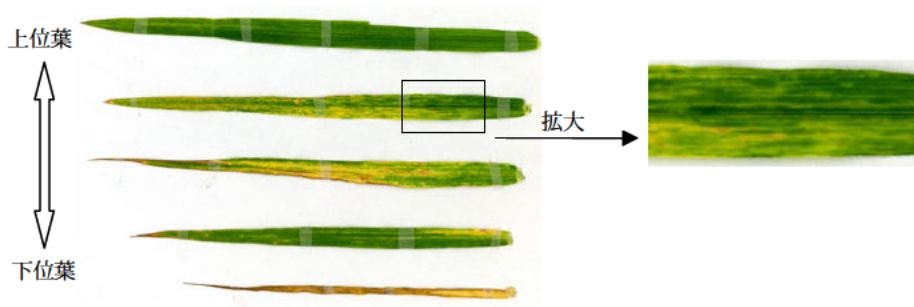
コムギ縞萎縮病は土壌伝染性のウイルス病です。本病で汚染された土壌が、農機具に付着して移動することによって発生地が拡大し、本県ではコムギの作付面積の 30～40% で発生するようになりました。

### 1) 発病と被害

コムギ縞萎縮病は播種後に土壌感染します。2 月下旬から新葉が黄白色になってしま模様になり、その後、葉身や葉鞘の生長が抑えられて萎縮します。4 月上旬頃になると新たな発病は止まります。しかし、それまでの生長がひどく抑制されていると、分けつ数および穂数の減少を招き、著しい場合は 20～40% の減収となることもあります。

### 2) 見分け方

一番の特徴として、展開葉を中心に、黄色のしま模様が縦方向に現れます。黄色のまだら模様、黄色でない薄緑色のしま模様のような症状は、湿害や肥切れなど他の原因が考えられます。4 月以降になってからは、上位の葉しか症状が見られない場合も本病ではないでしょう。



### 3) 伝染方法と発病条件

コムギ縞萎縮ウイルスは、土壌中のカビによって媒介され、播種後に感染します。感染や発病にはコムギの生育期間中の温度が深く関わっています。播種頃の気温の低下が遅れ、春先に気温が低くなる年は、感染や発病に好適となって、被害が大きくなります。年々、暖冬傾向になり、今年も 11 月から 12 月にかけての気温は低いとの予想ですので注意が必要です。

品種による発病の程度は下表のようになり異なります。

品種	縞萎縮病抵抗性
あやひかり	強
ニシノカオリ	やや強
タマイズミ	中
農林 61 号	中

### 4) 防除対策

効果的な防除薬剤はありません。抵抗性品種が導入できない場合は耕種的な方法で被害を軽減しましょう。

①晩播；播種期を遅らせると、発病の程度が軽減されることが確認されています。低温下では土壌中での感染の機会が失われるためと考えられています。

②健全な生育；排水対策や追肥等をしっかり行い、コムギを健全に育ててください。健全でないと病気による被害が助長されます。